

万石以下の面々、追々土著にも可被仰付、就ては當節家族共近國の知所等へ差遣し候儀、御差許相成候、依ては關所通行方の儀、御留守居手形を以て相通し候儀に候へ共、此節柄俄に發足等の節、手數も相懸り、自然不都合も可生候間、主人印紙へ人數高相認め、小女髮切、尼鐵漿附等の無差別、自分斷りを以て通行候様、可被致候、尤も此度限りの事に候條、可被得其意候、

右之通、万石以下の面々へ可被達候事、

十九日、兵器ノ運搬陪臣ノ印紙ヲ以テ關門ヲ通行セシム、
河内守殿渡 兼て相達し候通り、方今の形勢万一非常の儀も難計候に付、御警衛等被仰付候面々、其外共都て武器運送の節、關所通行の儀是迄の振合にては手數相掛り、自然不都合も可有之間、重立候家來の印紙へ員數相認め、直に御關所へ被差出通行、可被致候、尤も此度限りと可被心得候事、

右之通、万石以上以下の面々へ可被相達候事、

〔嘉永明治年間録 十三〕元治元年五月二十一日、關門前規ノ如クス可キノ達、

諸國關所并江戸出口宿々、其外番所に於ても、印鑑を以て改受候儀、追て相達候迄、前同様可相心得候、

〔飛州志 國法〕要關名數

本土今所在之關數三十一ヶ所、通稱番口國界或ハ往來ノ要路ニ建テ、土著ノ役人各交代シテ守之、是自他國ノ僧俗男女ノ出入ヲ改メ、商賣ノ諸品ハ悉ク其員數ヲ正シ、運上ヲ納メリ、通稱口役銀是古來定法ノ壁書アツテ沙汰セリ、故ニ州内ヨリ出ルモノハ、高山國府ニ集メ、治所ニ訴エ、各運

上ヲ納メ、印證ヲ得テ通行セリ、通稱切手或ハ通

〔名目抄 臨時〕固關此有天下吉凶之事、固關祭恒例儀也、